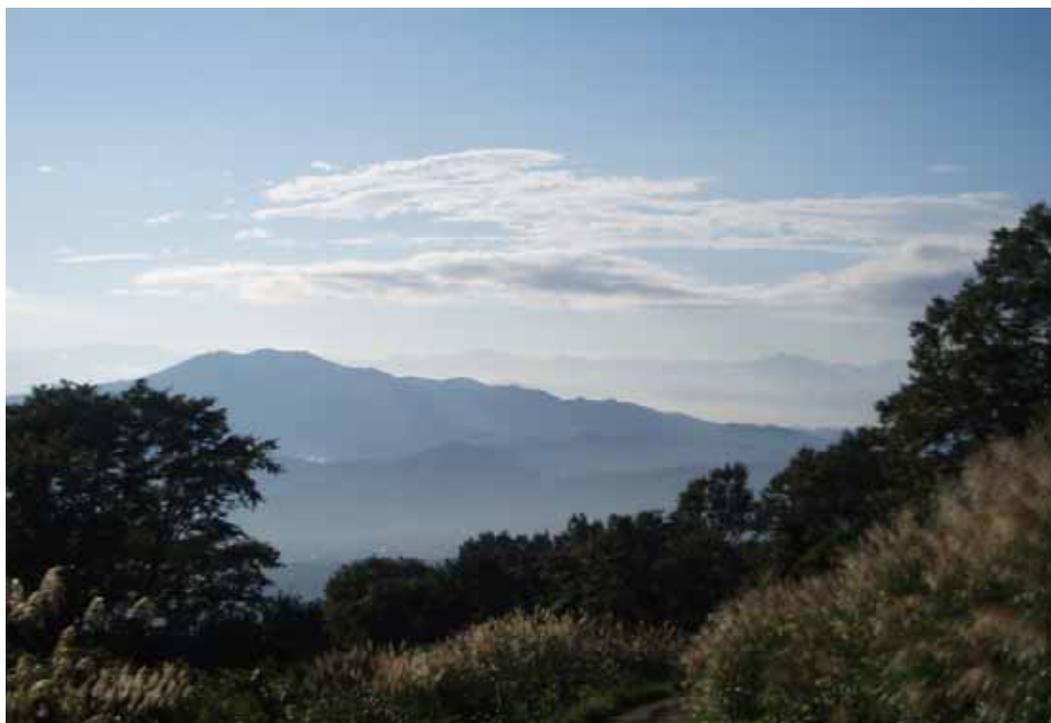


内視鏡によるチュービングの試み



上越総合病院耳鼻咽喉科
五十嵐良和

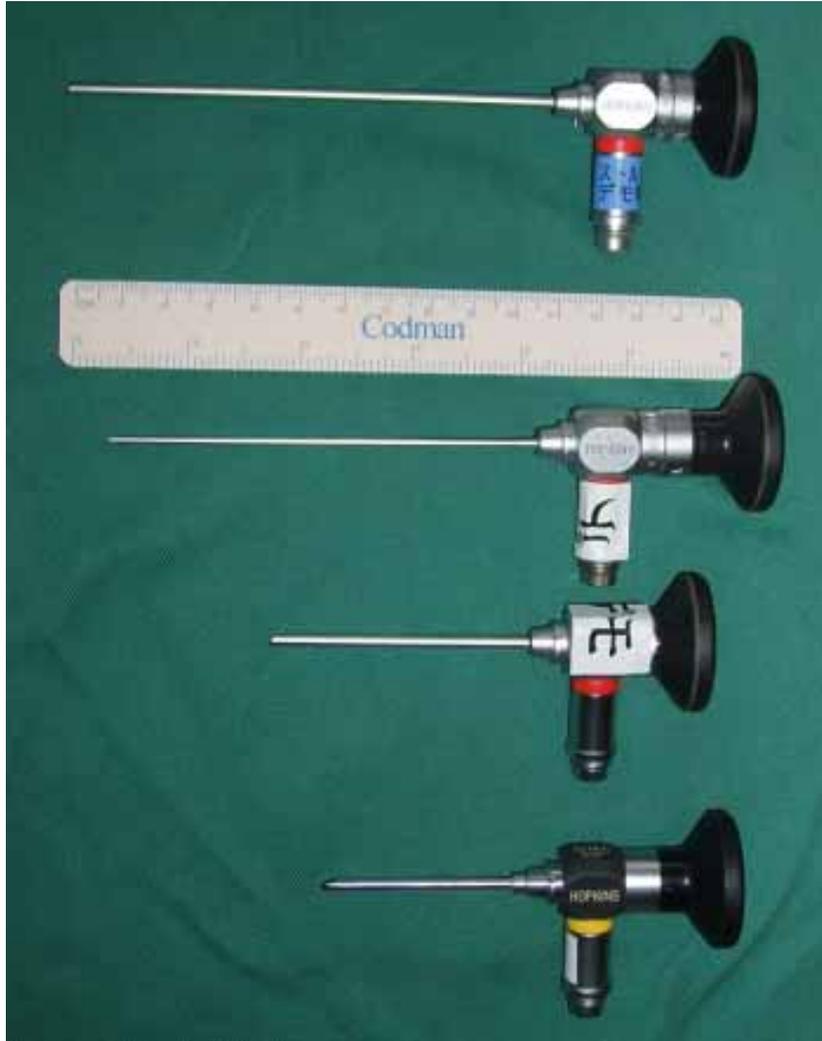
目的

中耳内視鏡を用いてチュービングを施行した。

従来から施行している顕微鏡下のチュービングと比較をおこなった。



中耳内視鏡 (STORZ)

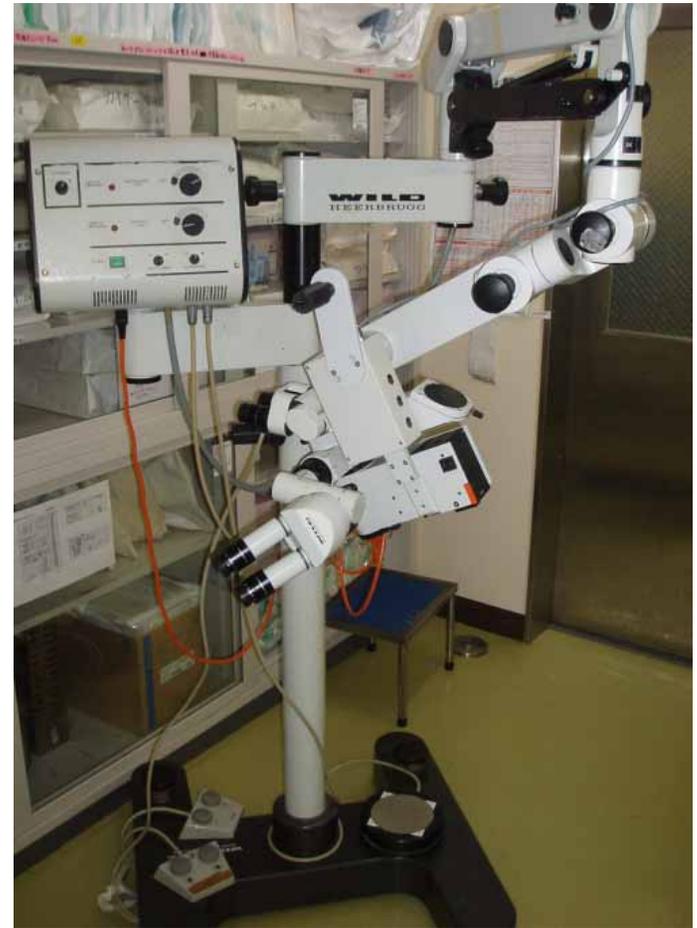


多様な長さ
太さのものがある。

今回は
長さ11cm
太さ 3 mm
30° のものを使用。

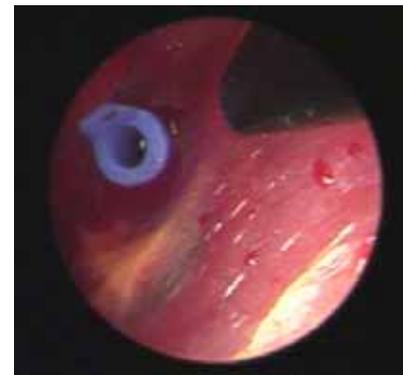
当院の顕微鏡

Leica/WILD M690
1980年代初期のもの

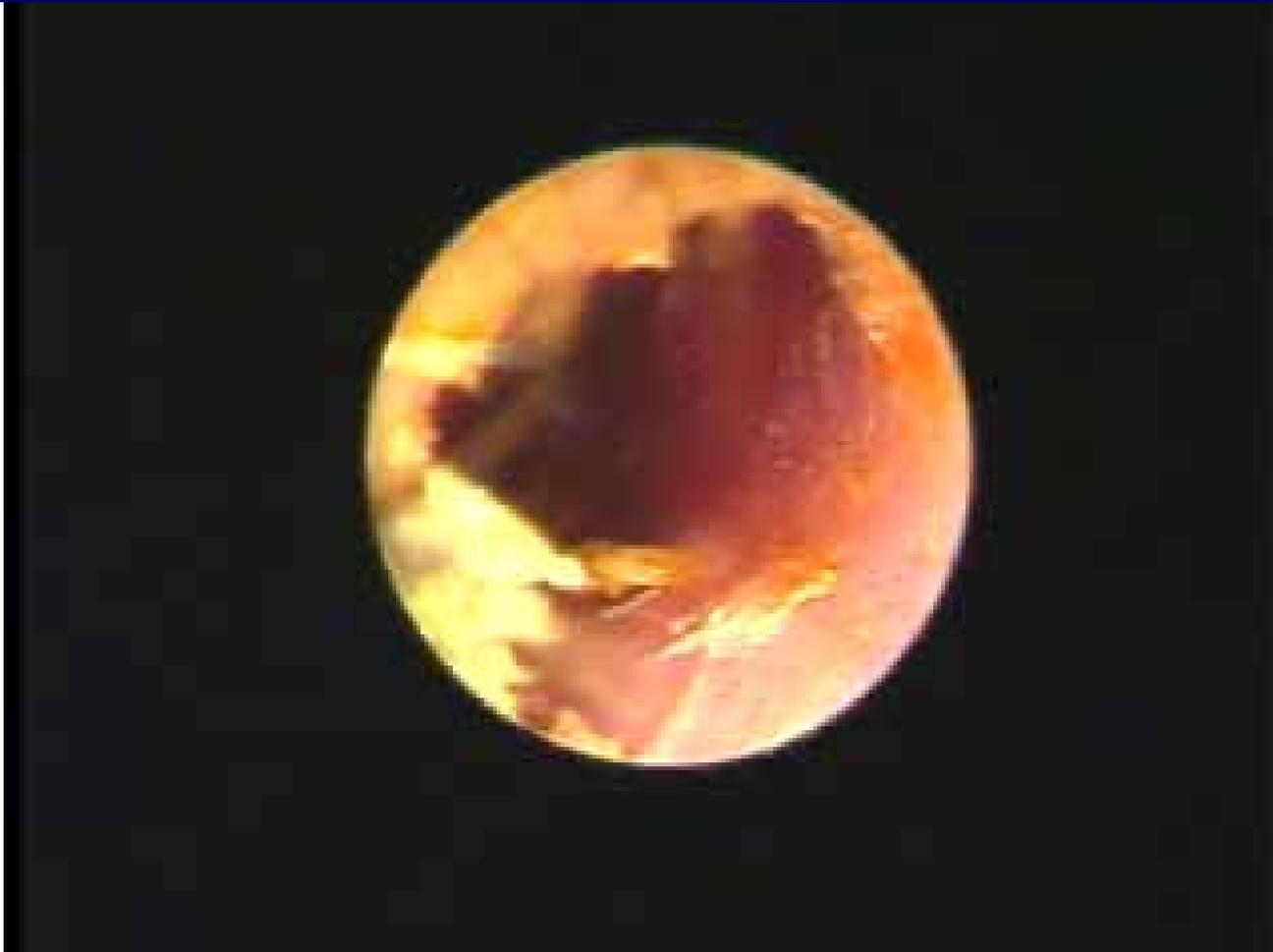


施行方法

- 1、まず、左耳で
内視鏡下にチューブ留置
- 2、次に右耳で
顕微鏡下にチューブ留置
- 3、さいごに、
内視鏡と顕微鏡の像を比較



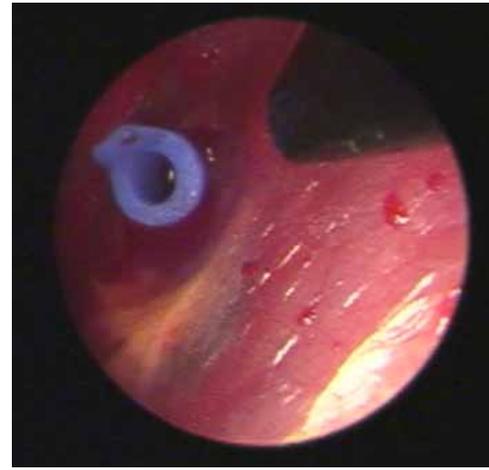
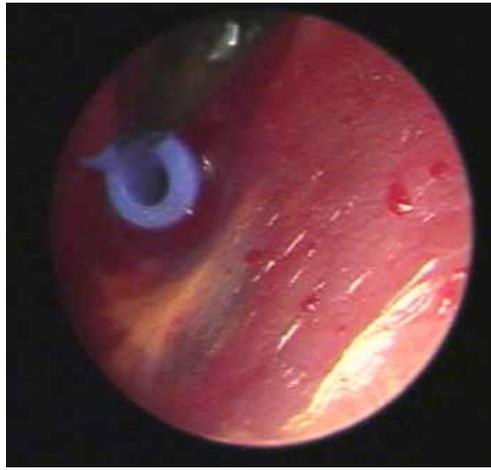
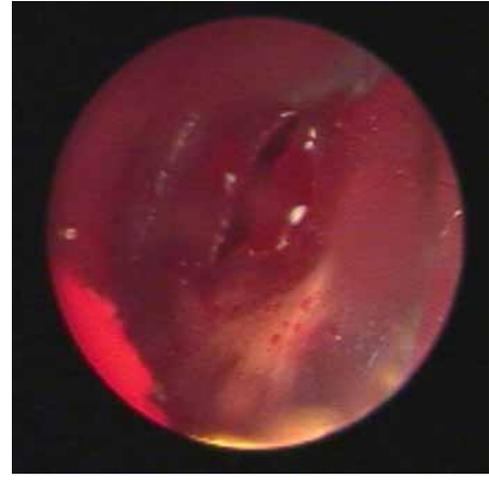
手術ビデオ



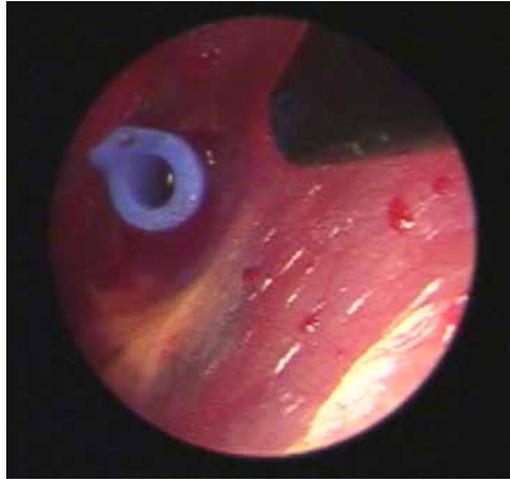
まず左耳を内視鏡下手術

次に右耳を顕微鏡下手術

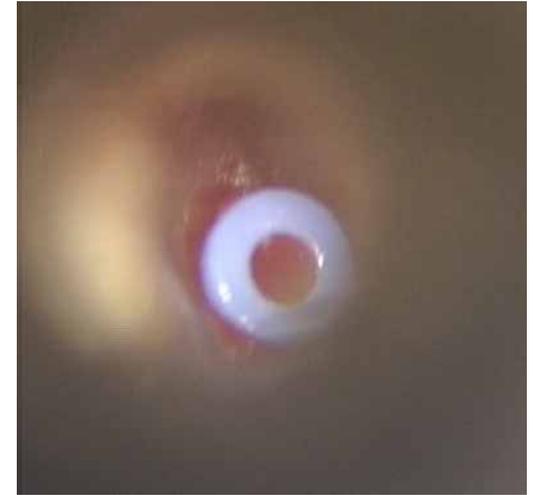
内視鏡下のチューブ留置



画像の比較



内視鏡



顕微鏡

視野の範囲

広い

狭い

ピントのあう範囲
(被写界深度)

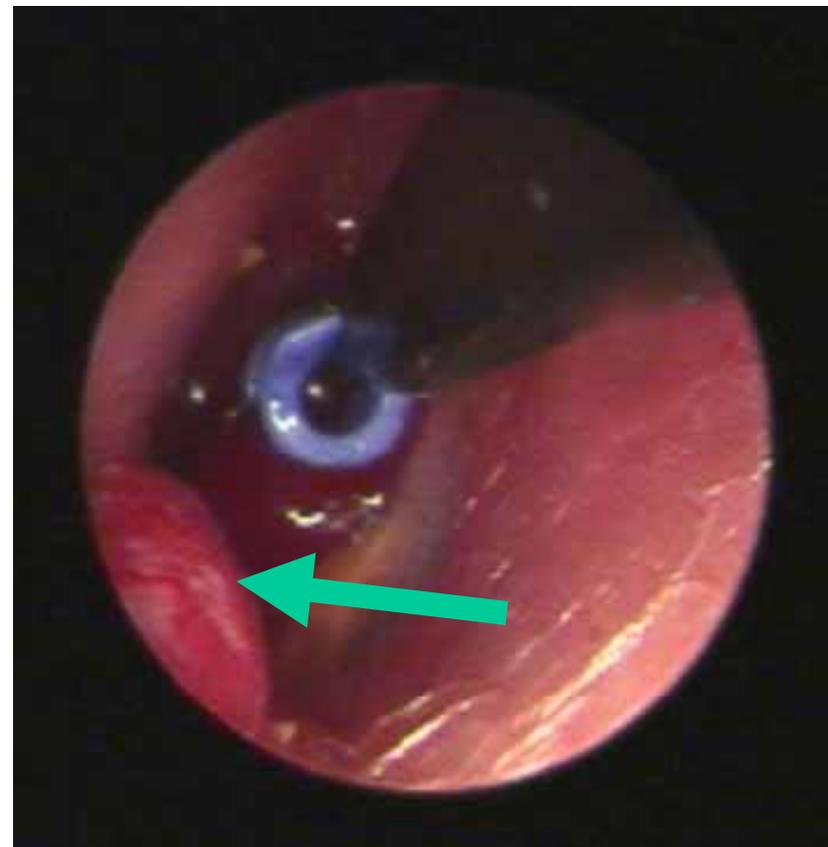
広い

狭い

×

内視鏡の欠点

硬性鏡によって
外耳道を傷つけやすい。
扱いに注意が必要。



内視鏡が有利な状況

顕微鏡で十分な視野を確保しにくい
以下のような場合

- 1、外耳道が狭い小児
- 2、鼓膜辺縁が外耳道の突出により
死角となる